

辺野古通信

第42号 2014年10月14日



10/11 大和ピースフェスティバル・辺野古パネル展示



10/2 横浜集会

発行 沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座(沖縄講座@横浜)
沖縄講座 HP <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~okinawa-koza/>

許すな！海保の暴力。政府はボーリング調査を中止せよ！

■8/14 防衛局は不法・不当に拡大したキャンプシュワブ沿岸の立入制限区域にブイ設置を強行。18日、浅瀬部分と砂浜のボーリング調査が開始され、ゲート前の資材搬入阻止行動、海上でのカヌー隊による抗議行動を暴力的に排除して、ついにジュゴンの棲む辺野古の海に穴が穿たれた。■ボーリングを阻止した10年前の攻防との決定的な違いは、武装した巡視船と頑強なゴムボートで海上保安庁職員が反対行動排除の最前線に登場したことだ。カヌーを転覆させ、市民を海中に引きずり込む、抗議船に乗り込んでキーを抜き取り船長以下の乗員を拘束する、暴虐の限りを尽くしている。新基地建設にかかる安倍官邸の並々ならぬ決意を示すものだ。■しかし沖縄の人々にとって、恒久的な辺野古新基地建設、それと連動した高江オスプレイパッド建設を阻む闘いは、絶対に負けられない闘いだ。ゲート前の行動と連動したカヌー隊の抗議行動、辺野古工事中止を求める8割を超える県民世論(8月下旬の琉球新報、OTVの世論調査)、3600人を結集した8.23ゲート前大集会、9.7名護市議選の反対派の勝利、5500人の9.20辺野古浜大集会、3800人の10.9沖縄県庁包囲行動などに示された沖縄の怒りが、安倍官邸・防衛省・海上保安庁・県警・警備会社一体となった重弾圧体制を跳ね返しつつある。「立入禁止区域に入れば刑事特別法で即逮捕」と

とされていたが、未だに逮捕者を一人も出していない。ボーリング調査は10年前よりも大幅に調査地点を減らし、一カ所あたりの調査日数も短縮。形ばかりの地質調査だが、陸上部分と浅瀬の12ヶ所が終わり、これから沿岸から離れた深い部分9ヶ所に着手する段階だ。10/10になって何故か3ヶ所を追加して入札公告を実施した。11月末までに終えるとしていたのに、3ヶ所の工期は来年3月末。大幅な遅れは隠しようもない。■沖縄現地に呼応した対防衛省、総理官邸、海上保安庁行動が連日取り組まれている。神奈川でも10.2横浜集会、10.11大和ピースフェスティバルを成功させ、11月にも幅広く呼びかけて集会とデモを予定。沖縄で起こっていることを横浜で、神奈川で多くの人に伝える、沖縄の問題を自分の問題として考え行動する人を一人でも増やす。そのために、沖縄講座として出来る限りの取組みを追求したい。ご協力を！

■辺野古・高江カンパは累計1,571,166円(10月13日現在)。引き続きカンパを！
郵振 00210-O-2021 沖縄連続講座



稲嶺名護市長

絶対に今年は、あの人(仲井真知事)にいい正月を迎えさせることはさせないように力を合わせましょう。(8/23ゲート前集会)

戦争準備に突き進む安倍政権にNO!を 11.8-9 神奈川行動へ

■講演集会 11月8日(土)18時 かながわ県民センター・ホール
講師 半田 滋さん(東京新聞記者)&木村草太さん(首都大学東京)

■デモ 11月9日(日)13時半 桜木町駅前広場集合
主催:「戦争準備に突き進む安倍政権にNO!を」実行委員会

辺野古の海を埋め立てるな！10.2横浜集会に50人参加



辺野古の海を埋め立てるな！
への基地押しつけを許さない横浜集会

10月2日の横浜集会(主催は沖縄講座。協賛が基地撤去をめざす県央共闘会議と自治労横浜市従業員労働組合)は、かながわ県民サポートセンターの狭い会議室がいっぱいになった。沖縄タイムス記者の宮城栄作さん(東京支社編集部長)の熱いお話に、約50人の参加者が最後まで熱心に聴き入った。会場で呼びかけた辺野古・高江のカンパは30,113円集まった。受付でご協力いただいた檄布の寄せ書きにも多くの方が、それぞれの思いを込めて記入していただいた。「いま、ここで、何か自分にできることをしたい」一ひとりひとりの参加者のそんな思いを感じることができた。

◆ ◆ ◆
集会の冒頭、森の映画社製作のDVD「速報 辺野古のたたかい2014年8月」を上映。8月中旬のブイ設置から、海に穴を穿つボーリング調査の開始、それに抗議するカヌー隊を暴力的に排除する海上保安庁の「海猿」たち。キャンプシュワブのゲート前を埋め尽くす人々。ナレーションを排した映像が発する辺野古のリアル。DVDを届けていただいた森の映画社に感謝したい。

◆ ◆ ◆
「沖縄は、いま～報道現場からの視点」と題して講演した宮城栄作さんは、米軍占領下の事件

事故にも触れてから、この間、安倍政権の下で強引に進められる沖縄への基地押しつけ攻撃の実態を、昨年の仲井真知事の埋め立て承認の経緯から現在まで、沖縄タイムスの紙面や現地の写真を映し出しながら振り返った。とくに、官邸の発する「地元には丁寧に説明する」「沖縄の皆さんの心に寄り添って」等々の甘言の「ユクシ(沖縄の言葉で嘘のこと)力」、沖縄メディアへの圧力を、怒りを込めて語った。

◆ ◆ ◆
講演後に沖縄講座からカンパの呼びかけと行動提起。辺野古の現地闘争や東京での防衛省前、官邸前行動への参加を呼びかけた。

連帯アピールは、沖縄・一坪反戦地主会関東ブロックからは10月9日の沖縄県庁包囲行動に連携した防衛省前行動、11月の沖縄県知事選挙に向けた取り組みへの参加呼びかけ、11月8-9日に「戦争準備に突き進む安倍政権にNO!」を神奈川行動を企画している実行委員会準備会からは行動への協力要請があった。

沖縄講座では10月中旬に訪沖し、カンパと檄布を現地に届ける予定。

◆ ◆ ◆
最後にアンケートに寄せられた参加者の感想を一部ご紹介したい。

* 沖縄の地元紙記者の話ということで参加しました。興味深い話ばかりで、大変参考になりました。(46歳男性) / * 宮城さんの話は、具体的で面白かった。(69歳男性) / * 沖縄タイムスの方の話は本当に分かりやすく、聞かせてもらいました。(66歳女性) / * 沖縄の現状を市民目線でわかりやすく宮城さんが説明してくれた。改めてこの問題について考える必要があると感じた。今後も出来る限り足を運んで、沖縄に対する理解を深めたい。(23歳男性) / * 朝日・東京・毎日新聞は限界があります。やはり現地の新聞ですね。ガンバレ沖縄タイムス。(74歳男性) / * 沖縄の歴史や今の状況がよくわかりました。(61歳女性) / * 沖縄の人たちの思いがしっかりと伝わってきたと思います。ありがとうございました。(72歳男性)



沖縄は、いま～報道現場からの視点



宮城栄作さん

1971年、沖縄・那覇市生まれ。東京の大学卒業後に帰郷し、97年沖縄タイムス入社。社会部・学芸部・通信部を経て、本年、3月から東京支社編集部長。

共感が広がる辺野古のたたかい

昨年の7月の参議院選挙以降、沖縄政策について強硬姿勢が露骨になってきた。安倍政権は、何が何でも辺野古新基地建設をやりたいと思っている。

辺野古では毎日抗議集会をしていて、本当に老若男女よく集まる。お年寄りには戦争の記憶があるし、復帰闘争をになった人達も「基地を孫に残したくない」と言う。切実な思いを持って来ている。最近感じるのは、若い人が来ている。これまでの反対運動はひとつの行動が終わるとサーッと引いていくことが多かったが、この運動は諦められない、という思いがひしひしと伝わってくる。

全国紙の記者によく言われるのは、「活動家だけでしょ」とか「地元の人はいないでしょ」と聞いてくる。なんでそう見ちゃうのかなあと思う。自分で行って見た人は少なく、メディアなどを通して情報を得る。「一度行って見たほうがいいよ」と言うようにしている。本土から行く人もいるが、実際、地元の人が出てきている。決して一部のプロ活動家がやっているとか、地元の人はいないとか言う人がいたら、ぜひ、「そうじゃないよ」とみなさんからも伝えてほしい。

海保の強権的な対応が辺野古の現場では問題になっている。この人たち、「危険だから近寄るな」と盛んに言うが、あの頑丈なゴムボートでガーッと近づいてくるのが、よほど危険。カヌーが転覆するくらい波も立つ。

抗議行動への激励・カンパがすごく広がっている。連日、生卵を持ってくる人や、飲み物を差し入れる人、オニギリを作ってくる人、「使ってください」と椅子を持ってくる人もいる。この運動の特徴は、共感が広がっていること。辺野古の人たちも、「本土の人たちは一度現場に来て、見て、声を上げて欲しい」と言っている。ぜひ現地にも駆けつけていただきたい。

政府のユクシ（うそ）力に気を付けよう

政府の記者会見で総理も、官房長官も、いつも「沖縄のみなさんに丁寧に説明し理解を得るよう努力します」「沖縄の皆さんの心に寄り添って、負担軽減に取り組みます」と必ず言う。これだけ聞くと、耳に心地よく響く。この言葉は、誰に向けて話しているかというと、沖縄県民に対してではない。本土の人間に向けて、「沖縄に対して政府は理解していますよ」と言っ

ている。そう感じる。具体的に「ではどう理解を得るのか」と聞いても、具体的な話は一切ない。「心に寄り添ってどうするか」と聞いても、次の質問に移ってしまう。これは明らかにわざとやっている。これがテレビで報道されると、「安倍さんは沖縄のためにやってあげてるんだね」となる。用事もないのに閣僚が沖縄に頻繁に来る（笑）。そして仲井真知事に会って、殺し文句を発する。これがテレビでいつも放映される。本土の人はこれで刷り込みがされている。こんなに政府がやってあげているのだから、沖縄の人も少しは・・となる（笑）。そういう話ではない。そういうイメージ操作。なぜそんなことをするかというと、辺野古や普天間の問題を国民世論に顕在化させない。沖縄は政府が出す「解決策」を拒否しているのに、沖縄のために精一杯やっているという印象を振りまき問題を見えなくするというイメージ操作をしている。抑止力のユクシは沖縄の言葉で嘘のこと。

強まる沖縄のメディアへの圧力

沖縄のメディアに対する圧力も強まっている。今年の2月に琉球新報が、陸上自衛隊の配備先として石垣島の2箇所が候補地に上がっていることをスクープした。それがたまたま石垣市長選の告示の日。1月に名護市長選で負けたばかりで、自民党本部が相当怒った。当時の小野寺防衛省が出張先で全国紙の記者に琉球新報の紙面を見せて「これについて質問してくれ」と要請し、会見で「そういう事実はない」と否定した。石垣にきた石破幹事長が自民党県連に話をして「選挙妨害だ」と記者会見させ、内容証明付きの郵便で琉球新報社と新聞協会に申し入れてきた。何の権限もない新聞協会にまで文書で抗議するというのは、前例のないこと。小野寺大臣は普段から沖縄地元紙の報道が気に食わなかったようで、これはチャンスとばかりに強硬に叩いてきた。

これまでも沖縄タイムスに対する圧力はあった。2005年に辺野古の海上でやぐらに登って占拠している市民を24時間取材して報道した。その時に防衛局から「この記事は出してはいけない」と言ってきて、沖縄防衛局の定例記者懇談の場から沖縄タイムスだけ締め出した。東京でも当時の防衛施設庁の懇談から支社の記者が締め出された。当時の西沖縄防衛施設局長の在任期間、ずっと出入り禁止にされた。この西さんが現在防衛事務次官になって今回の抗議文書の指示をしたようで、相当恨みがあるのかなと思った（笑）。森元首相も「沖縄の教職員組合は共産党が支配していて、なんでも反対する。沖縄の地元紙もそうだ」と失言して、わざわざ謝罪に来たこともあった。2006年には小池百合子さんが「沖縄とアラブのマスコミは似ている。反米、反イスラエル以外は出てこない」と発言して、今でも色々な場で沖縄地元紙を宣伝していただいている。自民党にとっては、地元紙の論調は相当目の上のたんこぶなんだろうと思う。

これからも圧力はかかってくるだろうが、決して誤報はしないように気をつけながら（会場笑）、圧力は受け付けられない報道を続けたい。

（編集部で内容の一部を省略し要約しました。）

10月11日大和駅前にて恒例のピースフェスティバル。沖縄講座は辺野古のパネル展示と現地の映像上映。辺野古カンパも7,222円集まりました。辺野古現地に届けます。



辺野古に呼応し、官邸前・防衛省・海保抗議行動展開

沖縄現地の闘いに呼応して、東京では沖縄・一坪反戦地主会関東ブロックや辺野古への新基地建設を許さない実行委員会が中心になり、総理官邸前や防衛省前での抗議行動、集会とデモを活発に展開している。行動の中では、いつも沖縄から携帯電話を通じて熱いメッセージが届けられる。沖縄の結集力にはとても及ばないが、少しずつ輪が広がっている。(現地の写真は沖縄タイムスから)



▲8/23 キャンプシュワブゲート前に 3800 人



▲官邸前に 500 人が集まり、辺野古連帯行動



カヌーに乗っていた別荘主が、海保の暴力に押し返され、船を揺さぶった。写真：沖縄タイムス



▲海保の暴力(上の写真)に抗議し、9/5 海上保安庁抗議行動に 130 人。昼には海保の担当者と約 20 人で交渉(右の写真)。カヌー隊に対する暴力の停止を強く申し入れた。海保側は暴力(海保側は「指導」と言い張る)の法的根拠を初めて説明した。海上保安庁法第2条と18条第1項。これは全く説得力に欠ける。上の写真についても「首の近くを押さえているが、力が入っていない」と居直った。参加者は、少なくとも法的根拠の説明もなく権力行使している辺野古の実態を改善すべく現場指導するよう求めた。



▲9/20 辺野古浜大集会には 5500 人(左の写真)。これに呼応して渋谷区宮下公園で連帯集会とデモ。650 人が参加して、渋谷の街を練り歩いた。



◆10/9 沖縄県庁包囲行動に 3800 人が結集(左)。同日夜の防衛省前緊急行動に 300 人が集まり「新基地 NO!」の声を浴びせた。